

④ 将来の児童・生徒数の増減への対応について

- ☑ 今後、児童・生徒数の将来推計から大きく教育環境の変化が見込まれる学校もあることから、本市の適正規模・適正配置の基準となる考え方を整理した上で、複数の学校をグループとして捉えながら、学校の統廃合や学区再編を含めた学校規模や配置の適正化に向けた検討を行います。
- ☑ 府中基地跡地留保地について、今後の学校施設に係る様々な課題に対応するための重要な用地と位置付け、今後の具体的な活用方法や整備内容などについて、検討を行います。

(1) 当面の改築事業における考え方

第3章で示したとおり、将来の児童・生徒数に関しては、市全体では、一時的に増加するが、その後、緩やかに減少する見込みとなっています。

改築時期が早い学校については、できる限り近隣の学校の学校規模や児童・生徒数の状況を注視しつつ、現在の児童・生徒数に配慮した改築を行います。

また、改築事業を実施した学校において、将来的に、児童・生徒数の減少に伴う学校規模の縮小が見込まれる場合には、基本計画や基本設計段階において、建物の一部解体や減築などが行いやすい建築計画を検討するほか、必要に応じて、一部地域における学区再編について検討を行います。

(2) 統廃合等を含めた学校規模や配置の適正化

第3章で示したとおり、学校規模については、学校ごとに状況が異なり、既に大規模化や小規模化が進んでいる学校があります。

次期実施校を除くその他の1グループ及び2グループの学校については、今後、児童・生徒数の将来推計から大きく教育環境の変化が見込まれ

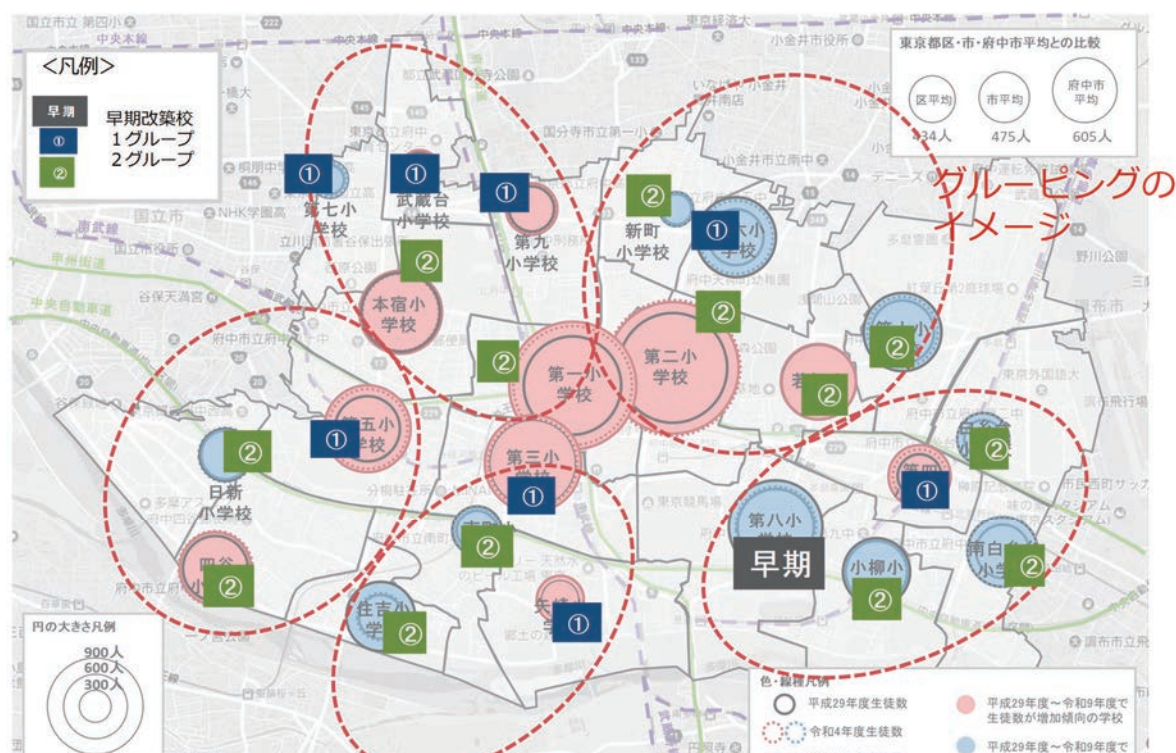
第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章
第7章
資料編

本市の老朽化対策の進め方

る学校もあることから、今後の改築校の選定に向けて、本市の適正規模・適正配置の基準となる考え方を整理します。

また、その基準に基づき、近隣で先行して改築を行った学校や、その後、に改築が行われる学校と学校間で学校規模の調整を図るなど、複数の学校をグループとして捉えながら、学校の統廃合や学区再編等を含めた、学校規模や配置の適正化に向けた検討を行います（図表50参照）。

【図表50 長期的な学校規模調整の考え方（イメージ）】



実際のグループ分けは、資料23-2（協議内容要旨）P13～15を参照

（3）府中基地跡地留保地の活用

府中基地跡地留保地については、市内の中心部に位置しており、十分な規模の整形地であることから、今後の学校施設の老朽化対策を進める上で、児童・生徒数の減少に伴う市立小・中学校の学校規模や配置の適正化に対応する学校用地として、また、改築事業時の仮設校舎費用の抑制などの様々な課題に対応する学校用地と位置付け、今後、具体的な活用方法や整備内容などについて、検討を行います。